

メディア掲載



展示会業界紙「見本市展示会通信」40周年記念特集号(2022年10月15日発行号)に寄稿記事が掲載されました。

展示会ビジネスとの奇跡の出会い

One&Only Exhibitions (ワンアンドオンリーエキシビションズ) 代表取締役
福田 悟



「見本市展示会通信」創刊40周年を迎えるにあたり、ピーオーピーの皆さまに心より敬意を表するとともに、この機会に自らの展示会人生を振り返ってみたい。

私が大手電機メーカーの経理社員から、外資系の展示会開催会社リード・ジャパンへ転職したのは30年以上前にさかのぼる。偶然、新聞の求人広告を見て直感的に面白そうだと感じて応募したのだ。今思えば、それが私の展示会ビジネス人生の第一歩であった。

今では各業界を代表する同社の国際展示会だが、その頃は第一回目の展示会を作り上げる草創期であった。当時の石積社長が自ら世界の主要各国に出張して出展企業を誘致するという姿を目の当たりにして、このビジネスの壮大さに驚嘆した。私自身も6年半の在籍中、数十回にわたるアジア・米国を中心とした出張の機会に恵まれ、「英語を生かして世界で仕事をしたい」という夢が実現したことに深い喜びを感じていた。

その後、長年の紆余曲折があったが、展示会ビジネスとの運命的な再会を果たすこととなる。2015年、縁あって国際会議の分野で日本を代表するコングレに入社、新規展示会への出展企業誘致に携わるようになったのだ。以前の経験が時を超えて蘇り、同社での約2年半の在籍中、この仕事こそが自分にとって唯一無二の天職であるという確信を持つに至り、一大決心をして2018年、『出展企業誘致』に焦点を当てる新会社を立ち上げたのであった。一人でゼロからの出発だったが、展示会主催者からの暖かいお声かけにより5年目の今年はこれまでで最高の実績を上げられる見込みとなり嬉しい限りである。

世の中に無数にある仕事の中で、一生続けたいと思えるこの展示会ビジネスと出会ったことはまさに奇跡的なことだと感じている。現在の私自身を育ててくださった方々への感謝の想いを胸に、この素晴らしい仕事を命の限り続けることで、微力ながら社会に貢献できたら光栄である。

message from exhibition industry players

展示会の意義を再認識し、 未来の価値づくりに挑戦する

フジヤ 執行役員／第2イベントコミュニケーション事業本部長
小林 良英



このたびは「見本市展示会通信」創刊40周年、誠におめでとうございます。
貴紙が創刊された1982年以降、展示会業界はさまざまな苦難を乗り越えてきました。ピンチの時には、展示会メディアの存在意義を信じ、業界の動きを丁寧にフォローしてきた貴紙の情報によって、我々は大変、励まされてきました。

とりわけコロナ禍では、展示会の中止を余儀なくされ、我々の業界が揺り所とする「人が集まるにぎわい空間づくり」は全面的に否定され、当社も含めて極めて大きな打撃を受けました。

しかし、この苦難によって、「展示会の価値は、出展社が将来のお得意先と出会い、関係を構築する機会をどれだけ創出できるかに尽きる」ことを再認識しました。我々は、その最善の解を提示するために、得意とするリアル会場での展示会空間づくりを主軸としながら、オンライン空間でのデジタルツール活用を融合し、トータルなプロモーションとしての「展示会メディアの空間未来価値」を生み出していくことを目指しています。

弊社の経営ビジョンは「響創」です。お客様、社員、協力会社、そして貴紙とともに、価値を響かせ合いながら、展示会メディアの空間未来価値を創る挑戦をしていきたいと考えています。

働き方改革への取り組み

東京造形美術 取締役営業部長
佐瀬 友行



この度は創刊40周年おめでとうございます。

私が展示会業界で働き始めてから30年、それより10年前に創刊していたことを考えますと感慨深いものがあります。

業界で働き始めた頃は時間を忘れて我武者羅に働くことが当たり前と思っていましたが、あれから30年という月日が流れ、働き方は一変しました。あの働き方が当たり前だと思っていた世代には今の働き方は生温いと感じる方もいらっしゃるでしょう。正直なところ私も最初はそんな考えをもっていました。しかしこれらの業界を背負っていくのは間違いなく私達ではありません、未来の展示会業界の発展のために必要なのは今の時代に合った働き方を認め尊重し推進する会社の姿勢がとても重要だと感じています。

展示会は2020年の新型コロナウイルス感染症の流行以前は右肩上がりで成長していましたが、一旦その流れはリセットされました。しかし、この事は働き方を考える良いチャンスだったのではないのでしょうか。健全な会社を作ることが今後の展示会業界の発展の近道だということを念頭に、当社でもリモートワーク・時差出勤など、未来の主役達が働きやすい環境作りの構築を行っております。10年後にコロナが無ければ変わらなかったと思う日が来ると私は思っています。

今後も業界の有益な情報の御提供を頂きますことを期待しております。

ピーオーピー様との40年

日豊機工 代表取締役社長
板倉 勲



「見本市展示会通信」創刊40周年おめでとうございます。

長きにわたり展示会業界の発展に寄与され続けてきたことに敬意を表します。今後とも更なる貢献に期待いたします。

当社は1981年に設立されて以来、イベント、展示会などに対し、冷蔵ショーケース・厨房機器などのレンタル事業を行い、今年で設立42年目を迎えました。「見本市展示会通信」の40年という歴史と共に、当社も同様に40年という年月を歩んできたことになりました。そんな苦労の中、ピーオーピー様と出会い、「見本市展示会通信」を中心とした沢山の情報により、業界の勉強をさせていただいたり、業界の諸先輩方と出会うきっかけをいただいたりと大変お世話になり、感謝の気持ちでいっぱいです。

設立当初は、冷蔵ショーケース等の修理会社でありましたが、社会の変化に合わせて、修理を行っていた機器をレンタルするという新たなニーズを取り入れ、以後着実に成長を重ね、食に関わる機器をフルラインナップで提供するレンタル会社として今日に至っております。

当社にとっては、展示会やイベント業界でのお仕事は、当初は異業界への参入であり、私も前職は全く違う業種業界でしたので、日々、勉強と経験の積み重ねでありました。そんな苦労の中、ピーオーピー様と出会い、「見本市展示会通信」を中心とした沢山の情報により、業界の勉強をさせていただいたり、業界の諸先輩方と出会うきっかけをいただいたりと大変お世話になり、感謝の気持ちでいっぱいです。

近年では、新型コロナウイルスという業界直撃の災いで、一時は展示会やイベントが全く開催できないという異常事態となりましたが、そんな時も「見本市展示会通信」を休むことなく発行し続け、情報を提供し続けてくれたことは、業界の人々の励みになったかと思えます。ピーオーピー様の努力に改めて敬意を表します。

ようやくコロナによる様々な制限が少しずつ緩和され、展示会やイベントで賑わう世の中が戻りつつありますが、これから先はコロナ前とは違った形での、ますます変化の激しい競争社会になってくると感じております。そんな中、引き続きピーオーピー様の発信される情報を上手に吸収活用し、更なる成長をしていきたいと思っています。

想像力を育み、創造力で実現する

ムラヤマ 代表取締役社長
矢倉 俊彦



「見本市展示会通信」創刊40周年おめでとうございます。ピーオーピーの皆様ならびに関係者の方々に心よりお祝いを申し上げるとともに、今後のさらなるご発展をお祈りいたします。

周年という節目に接するに、はじまりのその時を思い起こすことも多いと思います。40年前、そこはどんな世界で、これまで目に映ってきたものにはどんなものがあったのか。

今、眼の前を目まぐるしく変化するこの状況に心が奪われがちですが、広い視野に立てば当時想像されていた様々な世界が、いろんなところで実現し、私たちの豊かさに繋がっているものも少なく無い様です。いろいろな分野での自動化の他、通信・対話の仕組みの発達はこのスマホを中心とした新たな文化や価値観を生み出しているとも言えます。これは、いま私たちが出来る想像をどんどん広げて行くことで、これからの未来をより面白い世界にすることが出来るということでもあると思います。

想像力を育み、創造力で実現する。当社の役割は正にここにある様に感じています。

世界が同じ課題に直面している今、世界との繋がり方もより重要性を増しています。国という枠組みで繋がりを探り続ける中、人はボーダレスに繋がりが、「グローバル」の形も変わってきています。その中でどんなコミュニケーションをして、そこから何が生まれるのか。

当社はこれからも人々がつながる場、企業として繋がる場を想像し、あらゆる相手を想像して、皆様と一緒に実現していきたいと考えています。

展示会ビジネスとの奇跡の出会い

One&Only Exhibitions (ワンアンドオンリーエキジビションズ) 代表取締役
福田 悟



「見本市展示会通信」創刊40周年を迎えるにあたり、ピーオーピーの皆さまに心より敬意を表するとともに、この機会に自らの展示会人生を振り返ってみたい。

私が大手電機メーカーの経理社員から、外資系の展示会開催会社リード・ジャパンへ転職したのは30年以上前にさかのぼる。偶然、新聞の求人広告を見て直感的に面白そうだと感じて応募したのだ。今思えば、それが私の展示会ビジネス人生の第一歩であった。

今では各業界を代表する同社の国際展示会だが、その頃は第一回目の展示会を作り上げる草創期であった。当時の石積社長が自ら世界の主要各国に出張して出展企業を誘致するという姿を目の当たりにして、このビジネスの壮大さに驚嘆した。私自身も6年半の在籍中、数十回にわたるアジア・米国を中心とした出張の機会に恵まれ、「英語を生かして世界で仕事をしたい」という夢が実現したことに深い喜びを感じていた。

その後、長年の紆余曲折があったが、展示会ビジネスとの運命的な再会を果たすこととなる。2015年、縁あって国際会議の分野で日本を代表するコングレンに入社、新規展示会への出展企業誘致に携わることになったのだ。以前の経験が時を超えて蘇り、同社での約2年半の在籍中、この仕事こそが自分にとって唯一無二の天職であるという確信を持つに至り、一大決心をして2018年、「出展企業誘致」に焦点を当てる新会社を立ち上げたのであった。一人でゼロからの出発だったが、展示会主催者からの暖かいお声かけにより5年目の今年はこれまでで最高の実績を上げられる見込みとなり嬉しい限りである。

世の中に無数にある仕事の中で、一生続けたいと思えるこの展示会ビジネスと出会ったことはまさに奇跡的なことだと感じている。現在の私自身を育ててくださった方々への感謝の想いを胸に、この素晴らしい仕事を命の限り続けることで、微力ながら社会に貢献できれば光栄である。

50周年1000号に向けて

ケン&スタッフ 代表取締役社長
山本 剛也



このたび、創刊40周年をお迎えになられたとのこと、心よりお祝い申し上げます。おめでとうございます。

「見本市展示会通信」が創刊された1982年以降、国内で開催される展示会の数、展示会産業を取り巻く環境は大きく変化を遂げてきたことだと思います。昭和、平成、令和と代わり、アナログからデジタルへの移行が進むなど、世の中が大きく変革してきている時代の中で、過去883号、見本市展示会通信を通じて展示会産業に関わるあらゆる有益な情報、主催者をはじめとする業界内の方々への声や考えなどを読者に伝えて頂いたことは、間違いなく展示会産業に大きな功績を残されていると感じております。

展示会産業の発展にともない、創刊40年を迎えた背景には、貴社のみならずの熱い思いと、長きにわたり独自で築かれてきた情報源は貴紙の持ち味として重宝されてきたことと拝察いたします。

次は50周年1000号に向け、貴紙が新たな歴史を積み重ねられ、今後も展示会産業をリードし続ける紙面として益々のご躍進をお祈りいたします。我々も展示会産業を支える企業として精進してまいります。